



西南学院大学
図書館報

No. 6 1

1974年7月4日発行

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館

大学図書館と開館時間について

司書長 刀 根 淳

昨年5月長崎大学において九州地区大学図書館協議会が開催された際、その管理部会では私は「大学の研究体制と大学図書館の開館時間との関連について」発題しましたが、この協議会について国・公・私立大学図書館の参加者43名が審議をおこないません。私はこの提案理由のなかで、「大学図書館員の労働条件の改善は、必然的に開館時間の短縮に結びつくが、これは大学の研究体制の面からみれば、研究条件の改悪につながることもなる。この相互関係について各館の情報を交換し、これが対策について協議してほしい」と述べていました。

この協議会について相当活発に論議されましたが、その結論として司会者であった大庭教授（鹿児島大学図書館長）は次のように述べています。「……この問題は、問題が広範で、労働条件として週5日制などがこれから実施されるようになりますと、図書館のもつサービス機能と労働条件の変化とをどのように調和させてゆくか困難な問題であります。その一つとして時間外開館についてみても承合事項にありますとおり、各大学によってマチマチであり、それは普通残業とは質的な差もあり、新しい仕事とも考えられますが、多くの大学が行っているものを参考にして、これを克服し解決してゆくべきでしょう。殆んどの大学が平日は9時から17時まで、土曜日は9時から12時までとなっています。結論としては、各大学の特殊事情があり、一概にこうと決めることは困難であるが、夫々の解決策をみつけてゆくということがあります。」（同協議会誌掲載の原文）

そして、この管理部会の後開催された合同協議会では、その司会者井上教授（長崎大学図書館長）は「（前略）……西南学院大学からご提出の問題は

労働時間と大学教官の研究体制の関係で非常に困難な問題でございましたが、……（中略）……各大学の伝統、慣習とがあります関係で、今後のこういう問題について、いかに、対処すべきかということが教えられ非常に有益でありました」と結んでいます。（同協議会誌掲載の原文）

さて、私はこの協議会開催前に、加盟館に承合事項として各館の開館時間および館員就業時間等について詳しいアンケートを求めました。その結果は、各館マチマチであり、国・公・私立としてそれぞれかなりの相違が認められます。一例をA表にあげ

(A表)

開館時間（月～金）		
国立11校中	9時～17時	5校
公立8	〃 〃 〃	6校
私立14	< 9時～16時30分	2校
	9時～17時	6校
（西南 8時45分～19時）		

大学図書館は、大学の象徴とも、心臓ともいわれますが、大学の教育・研究の推進力として活発に利用されてこそ、その本来の目的・使命を果しうるわけであり、そのためには図書・資料の量質両面の整備充実が要請され、同時にその利用のための開館時間の長短が問題になるのは当然であります。即ち研究をより一層推進するためには、開館時間の短縮とは逆の延長も必要に応じて検討すべきであります。一方事務職員の労働条件の改善をはかるべきであり、現実には次々と改善策が講ぜられており、週5日制がすでに企業の域から官庁および教育機関にも波及の情勢にあることを考えた場合、協議会での結論は、まさに大学図書館の開館時間についての重要性を指摘しており、これからの重要課題として取り組まねばならないと思えます。

CIS / Index の 利 用 法

福岡アメリカンセンター 川上 繁 治

Congressional Information Serviceは、1970年より毎月、前月にアメリカ議会で発行されたすべての公文書 (Congressional Record に収録されるような資料を除く) を要約し、索引を出版しています。 Monthly Index ばかりでなく、Quarterly と Annually の累積索引も刊行されています。 CIS Index に収録される文書の量は年間550,000ページ以上にのぼります。

Index の Summary Section には次の各種文書の摘要が含まれています。

- Committee Hearings
- Committee Prints
- House and Senate Reports
- House and Senate Documents
- House and Senate Special Publications
- Senate Executive Reports
- Senate Executive Documents

Index Section は主題 (Subjects) と人名 (Names), および次の各項目により検索することができます。

- Subjects of documents and hearings
- Subjects discussed by individual witnesses
- Names of authors (corporate or individual)
- Affiliations of witnesses and authors
- Names of subcommittees
- Official and popular names of laws, reports, bills, etc.

さらに、追加索引があり、

- Bill numbers
- Report numbers
- Document numbers
- Names of committee and subcommittee chairmen. による検索も可能です。

公聴会での個人の証言にはそれぞれ個々の摘要がなされています。

CIS では、その Index に掲載した全ての資料を Microfiche Library として出版している。年間55万ページ以上にのぼる膨大な量の資料は、CIS Accession Number System によってアレンジされています。これは Index で摘要にアプローチするのと同じ方法なので、摘要を参照した後、必要な文書を利用することができます。

1973年度の CIS Quarterly Index (Oct-Dec.) で「海洋法」について検索すると、次の通り、see および see also により、関連した主題のすべての文書が得られるようになっています。

Law of the Sea

see Maritime Law

see also Marine Insurance

Territorial Waters

see also Continental Shelf

アメリカン・センターの図書室 (Infomat) では、航空便で、これらの資料を購入しているので、文書発行後60日以内に自由に利用することができます。

詳細は福岡アメリカン・センター (Tel. 761-6661) におたずね下さい。

(本稿では、正確を期するため、重要な用語はあえて原語のまま使用しました。)

外国図書館シリーズ その3

ワシントン州立大学と図書館

文学部教授 唐木田 芳文

米国西北端のワシントン州は、樹木がよく繁っているので、Ever Green のニックネームがある。なかでもシアトルは、入江と湖、そして森と丘が交錯して、とくに風景が美しい。

ワシントン（州立）大学は、ワシントン湖を望む丘の上に、公園のような 660エーカーのキャンパスをもっている。1861年に今のダウンタウンの中心街に創設されたが、州の独立後、1895年に現在地に移転した。1971年現在、学部数が15、学生数は33,000を越え、土地柄か、世界の90か国から集まってきた外国人学生が1,250人もいる。

大学図書館としては、中央図書館 (Suzzallo Library) と学部学生図書館、それに学部・学科に付属した18の分館がある。学生便覧によれば、蔵書188万冊、研究報告書約33万点、定期刊行物約3万4千点、そのほか貴重書や手記の類が収められている。

建物も、1927年に建てられたスーザロ

図書館(写真)は、古いヨーロッパ風の重厚な感じがあり、キャンパス内のどのビルよりも立派で大きい。この前は、石を敷きつめた 100m四方もある広場になっており、さらにその先には、大きな G. ワシントンの立像が、スーザロ図書館を背にして立っている。そして、彼が見ている遙か彼方には、氷河でのこぎりの歯のように削られたオリンピック山脈の峰が続き、それらは雪でおおわれ、真青な空とあざやかな対照をなしていた。このとり合わせは、ワシントン大学における最も象徴的なところではないかと感じた。

「図書館は大学の心臓である」ということばをよく聞くが、米国・ヨーロッパの大学ではどこでも、図書館の建物が大きく立派であった。そして、見掛だけでなく、

中味もそれだけの重みをもっている。日本と比較すると、米国が、大学図書館の数で約2倍半、蔵書数で約5倍である。人口が約2倍だから、日本も、大学の数では米国なみになってきているけれども、その充実度では相当に劣っているようだ。

これは、米国が財政的に豊かであることにもよるのであろうが、やはり、大学当局のみならず社会全体が、大学における図書館の役割りを認識し、育成に努力してきた結果だと思う。米国には、蔵書数 100万冊を越える大学図書館が20以上あるという。

それと同時に、その大学の研究に応じて、蔵書構成に特徴が出ていることに気付く。例えば、米国における日本研究は、世界のどの国よりもずば抜けて発達している。大学における日本研究関係の教員数は、1970年当時で 416人、日本語蔵書は約 182万冊だという。このなかで、ワシントン大学は、教員数が10人で、第7位、蔵

書数が3万3千冊で、カリフォルニア大学、ハーバード大学などには及ばないが、13位にランクされている。極東研究所やアジア芸術センターをもち、アジア・日本研究に力を入れていることがわかる。

最後に、図書館を利用するのに便利に感じた点を2・3書いておく。まず、開

館している時間が物凄く長いことにびっくりした。平日(週5日)は、午前8時から夜中の午前0時か1時までである。身分証明書で自由に出はいいで、勿論開架方式である。そのため、やはり本がかなりなくなるらしいが、別に気にしている様子でもなかった。また、本の返却口が玄関わきの壁に開けてあって、閉館時でも不便を感じなかった。

1年足らずの浅い経験ではあったが、米国でもヨーロッパでも、「図書館は大学のセンターである」という信念と理想のもとに、内容の充実、機能の発揮に、最大限の努力を払いつつある姿に、強い感動をおぼえた。



昭和48年度図書館利用統計

(神学部分館を除く)

◀どんな内容のものがどれだけ増加したか (昭和48年度増加冊数)

区分	分類										計
	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	
和書	303	662	384	3,234	462	346	1,025	395	209	932	7,952
洋書	81	479	382	2,197	233	96	436	48	511	2,156	6,619
計	384	1,141	766	5,431	695	442	1,461	443	720	3,088	14,571
前年度和洋計	771	950	803	5,436	569	384	1,116	326	809	2,908	14,132

◀この一年間、図書館はどれだけ利用されたか

○入館者数 (学生)

学部	年度	48年度	47年度
神学部		23	10
文学部		22,064	23,262
商学部		22,826	24,823
経済学部		17,859	21,047
法学部		25,218	27,320
短期大学部		3,608	3,469
大学院		755	512
その他		564	365
計		92,917	100,808

○館外貸出人員 (学生)

学部	年度	48年度	47年度
神学部		5	2
文学部		5,988	6,396
商学部		5,489	6,947
経済学部		4,346	5,389
法学部		5,605	7,217
短期大学部		1,859	1,884
大学院		525	377
その他		131	172
計		23,948	28,384

○館外貸出冊数 (学生)

分類別	年度	
	48年度	47年度
0 総記	331	446
1 哲学	3,112	3,527
2 歴史	1,200	1,635
3 社会科学	15,779	18,402
4 自然科学	955	1,178
5 工学	429	242
6 産業	2,622	3,222
7 芸術	1,393	1,678
8 語学	1,339	1,415
9 文学	8,804	9,697
雑誌	673	797
計	36,637	42,239

注：48年度その他は、留学生別科を含む。

告知板

○夏休長期貸出 7月1日(月)より夏休長期貸出を行います。冊数は3冊以内。返却期限は9月17日(火)までです。

○夏休中の開館、閉館予定 休暇中は原則として次のとおり開館します。

月～金 9時～5時 } 開架閲覧室を開き学習室は閉室
土 9時～12時 } します。

なお、7月30日(火)～31日(水)は職員修養会のため閉館します。

○卒業論文特別貸出について 4年次生は卒論作成のための特別貸出をすることができます。通常の貸出のほかに、3冊以内、1ヵ月間の特別貸出です。希望者は受付まで申し出てください。

○卒業論文の閲覧手続について 図書館に保管されている諸先輩の卒論の作成参考のため、ゼミ担当教授の承認を経て閲覧することができます。希望者は予め受付で用紙をもらってください。なお、館外貸出はできません。

336 奉仕係より

21 新入生の皆さんも図書館の利用にも慣れたことと思います。最近、学習室の利用が一段と多くなったように思われますが、残念なことに、常に係が在席していないからでしょうか、私語が多いようです。他人の迷惑を考え、つつしんでください。

16 今まで学習室に設けていた指定図書は、2階閲覧室に移動しました。自由に閲覧してください。指定図書目録は、折り込みの(1)～(4)に掲載のとおりです。また、2階ロビーに新刊書棚を設置しました。毎週木曜日に入れ替えますが、いちはやくご覧になりたい方は、係まで申し出てください。

もうすぐ夏季休暇。海へ山へと計画をたてておられることと思いますが、図書館で充実した夏休みを過ごされてはいかがですか。(J.N.)

昭和49年度 指定図書リスト

文学部 (教養課程)

樋口 進 <中国文学>
現代の中国文学 相浦泉 NHK

伊藤 博 <国文学>
源氏物語 (全10冊) 円地文子 新潮社
源氏物語 今井・秋山・阿部 小学館
光源氏の世界 I・モリス 筑摩書房

唐木田芳文 <地学>
地球 W・B・ハーランド 法大出版
地球の科学 竹内・上田 NHK
続地球の科学 竹内均 NHK
地球の再発見 (別冊サイエンス) 日経
<自然総合科目>
地球資源学入門 B・J スキンナー 共立
地熱 早川 正巳 NHK
石油地質学 土田定次郎 前野書店
特集エネルギー (別冊サイエンス) 日経

小樋井 滋 <哲学>
西洋哲学史 岩崎武雄 有斐閣

中村 和夫 <キリスト教学>
聖書 フランシスコ会聖書研究所
聖書 日本聖書刊行会
新契約聖書 永井直治

シート, L. K. <キリスト教学四年次>
あなたはどこにいるのか 宗藤 新教出版
<キリスト教学四年次>
賀川豊彦 隅谷三喜男 日基団出版
新左翼とキリスト教的ラディカリズム
A・ギッシュ 平凡社

八田 正光 <キリスト教学一年次>
伝道的教義学入門 熊沢義宣 東神大
旧約聖書概論 岡村民子 新教出版
聖書 C・H・ドッド 新教出版
聖書の思想 秋田 稔 塙書房
信徒のための旧約聖書入門 R・B・ローリン
<キリスト教学三年次>
イエス C・H・ドッド ヨルダン社
イエスと神の国 平野保 日基出版
神の国の譬 C・H・ドッド 日基出版
新約聖書の中心使信 エレミアス 新教
使徒の宣教とその展開 C・H・ドッド 新教
<キリスト教学四年次>
キリスト信仰の本質 高橋三郎 新教
パウロ ボルンカム 新教出版

パウロの思想 W・パークレー 日基団出版
ローマ W・パークレー ヨルダン社
ローマ人への手紙 松木治三郎 日基団

吉井 権雄 <自然科学概論・生物学>
現代の生物学 荒木忠雄 培風館
科学概論と自然科学史 大学自然科学研究会
東京教学社
生命を探る 江上不二夫 岩波
<総合科目>
現代生物学 沼野井春雄 裳華房
量子生物学 大木幸介 講談社
生命とエネルギーの科学 化学同人

文学部 (英語・英文)

逢坂 収 <英語>
Fairy and Folk Tales of Ireland
Yeats Macmilan
現代アイルランド文学研究 尾島庄太郎 北星堂
アイルランドの反逆者 ビーアン 晶文社
アイルランドの反乱 堀越智 三省堂
Old Celtic Romances Joyce Talbot

安徳 典光 <商業英語>
貿易英語 浅野弘 ジャパンタイムズ
貿易英語と実務 大久保隆三 同文館
ビジネス・コレスポネンズ入門
鈴木・中村 大修館
標準商業英語 中村・羽田 英宝社
商業英作文の急所 羽田 商業英語出版
<演習>
America as a Civilization Vol.1 Vol.2 Lerney
Simon & Schuster
Our National Heritage Pei Houghton Mifflin

福田 靖 <貿易論>
貿易実務100問100答 石田貞夫 同文館
英文契約書 岩崎一生 同文館
外国為替 駒崎一雄 布井書房
国際寡占と貿易理論 梅津和郎 法律文化社
国際取引契約 浅田福一 布井書房

泉 マス子 <演習>
英語論文とレポートの書き方 鳥居・宇山
英潮社
An Introduction to Research in Speech
Aver Harper
The Silent Language Hall Fawcett World
Speech-Communication Smith Harper

Training the Speaking Voice Anderson Oxford

村上隆太 <英語音声学>

English Dialects Brook Andre Deutsch
An Outline of English Phonetics Jones 丸善

<英文法>

A Handbook of English Grammar

Zandvoort 丸善

佐渡谷重信 <比較文学>

アメリカ精神と近代日本 佐渡谷重信 弘文堂

比較文学 ティーゲーム 早大出版局

比較文学 吉田・武田 潮文社

比較文学講座1-4 中島・太田・福田 清水弘文堂

<演習>

アメリカ文学史 カンリッフ 北星堂

アメリカ小説論 佐渡谷重信 泰文堂

現代アメリカ文学入門 龍口直太郎 評論社

現代アメリカ文学史 ケイジン 南雲堂

20世紀英米小説論 アレン 鹿島研究所

空西哲郎 <英語学概論>

Dictionary of Language and Linguistics
Hartmann & Stork Applied Science

現代英語学辞典 成美堂

新言語学辞典 研究社

<英語学特講>

English Proverbs Explained Ridout &
Witting Heinemann

Oxford Dictionary of English Proverbs O. U. P.

常識としての英語の諺800 ライダウト&
ウィティング 北星堂

銭本健二 <演習>

The Starlit Dome Knight Oxford

文学部 (仏語・仏文)

中村栄子 <フランス語学概論>

フランス語発達小史 ドーザ 駿河台出版

フランス語の歩み ドーザ 白水社

フランス語のできるまで 家島・川村・田島 白水社

フランス語史 ショーラン 白水社

<フランス語文法>

フランス文法事典 朝倉季雄 白水社

現代フランス文法 田辺貞之助 白水社

太田和男 <実務フランス語講読>

Comment vivent les français Girod et al
Hachette

末松寿 <フランス文学講読>

フランス文学案内 渡辺・鈴木 岩波

ギリシア悲劇全集I 高津春繁(等) 人文書院

ギリシア喜劇全集-アリストブァネス篇

人文書院

詩学 アリストテレース

岩波

商学部

馬場克三 <経営学総論>

ドイツ経営学の成立 田島仕幸 森山

経営管理技術論 武村 勇 森山書店

経営経済学の基礎理論 片岡信之 千倉

経営経済学の展開 永田 誠 森山書店

個別資本理論の研究 浅野 敏 ミネルヴァ

<演習>

社会会計基準序説 ペイトン リトルトン

森山書店

会社準則と会計原則 アメリカ会計士協会

中央経済社

経営費用論 中西寅雄 千倉書房

近代会計成立史論 茂本虎夫 ミネルヴァ

基礎的会計理論 アメリカ会計学会 国元書房

古林輝久 <経営労務論・労務管理論>

動機づけの経営理論 笹木正治 同文館

人間行動のモチベーション ヤコブソン

明治図書

労働における疎外と自由 ブラウナー

新泉堂

労務管理発展史論 笹木正治 同文館

仕事と人間性 ハーズバーク 東洋経済

後藤泰二 <保険論>

保険経済の研究 笠原長寿 未来社

保険理論の基礎 星野良樹 千倉書房

保険総論 亀井利明 法律文化社

<経営財務論>

現代日本の株式会社 野口祐(他) 南雲堂

株式会社の経済理論 後藤泰二 ミネルヴァ書房

経営財務論 片山伍一(他) ミネルヴァ書房

信用制度と株式会社 鈴木芳徳 新評論

土方久 <会計学原理>

会計原則コンメンタール 木村重義 中央経済社

企業会計原則の理論 山下勝治 森山書店

財務諸表会計 山下勝治 千倉書房

<簿記原理>

簿記史 小島男佐夫 森山書店

近代簿記論 山下勝治 森山書店

<外書講読II>

動的貸借対照表論 シュマーレンバッハ

森山書店

収支損益計算論 高田正淳 千倉書房

財務会計論 高田正淳 森山書店

<演習 I>

現代会計の史的研究 関西学院大学会計学研究室
森山書店

<演習 II>

物価水準変動財務報告 片野一郎 同文館
現代会計の史的研究 関西学院大学会計学研究室
森山書店

井上 康男 <管理会計論>

不確実性と資本予算 井上康男 白桃書房
管理会計論 井上康男 同文館

小森 俊介 <マーケティング論>

行動科学の基礎戦略 シムキンズ 千倉書房
マーケティング理論とシステムズアプローチ
東京ワークショップ 白桃書房
流通研究の新展開 荒川祐吉 千倉書房
流通政策への視角 荒川祐吉 千倉書房
ボランティア・チェーンの研究 竹林祐吉 千倉書房

徳永正二郎 <貿易論>

国際金融論講義 村野 孝 青林書院
短期国際資本移動論 プルームフィールド 新評論
国際取引ハンドブック 朝岡良平(他) 中央経済社

<演習>

1985年の世界貿易 1巻～6巻 世界経済研究協会
至誠堂

経 済 学 部

吾 郷 健二 <国際経済論>

国際経済学要論 行沢健二 ミネルヴァ
70年代の資本主義 ドップ(他) 新評論
南北問題 森田桐郎 日本評論社
戦後世界の通貨過程 大島 清 東大出版
資本は国境を超えて 宮崎義一 朝日新聞社

フィルダー、L・G・ <低開発経済学>

経済白書 昭46・47・48 経済企画庁 大蔵省印刷局
経済発展論 上・下 キンドゥルバーガー 好学社
経済協力の現状と問題点 1972・1973 通商産業省
通商産業調査会

南北問題入門 日本経済新聞社 日経

船 木 勝也 <統計学総論>

標本調査法 津村善郎 岩波
経営と経済学のための基礎統計学 上・中・下
ニーター&ワッサーマン ダイヤモンド社
経済統計 大橋・高木・大屋 有斐閣
統計概論 森田優三 日本評論社
統計学 有沢・内藤 弘文堂

古川 卓萬 <財政学総論>

現代財政学 広田司郎 ミネルヴァ

現代財政学体系3 林 栄夫(他) 有斐閣

日本の財政 2巻・5巻 木下和夫 東洋経済
財政論 林 栄夫 筑摩書房

原田三喜雄 <日本経済史>

日本経済史 永原慶二 有斐閣
日本の近代化と経済政策 原田三喜雄 東洋経済

<演習>

日本経済論 江見・塩野谷 有斐閣
戦前期日本経済成長の分析 中村隆英 岩波

八田 薫 <地方財政論>

財政及公企業論集 八田 薫 梓書院

木村 毅 <社会政策総論>

賃金・労働時間制度の実態 労働省 労働法令協会
労働の経済学 保谷六郎 中央経済社
労働の国際比較 司馬正次 東洋経済
労働者福祉論 西村諭通 有斐閣
社会政策論 小林端五 青木書店

<社会思想史>

ドイツ3月革命の研究 柳沢 治 岩波
ドイツ社会思想史研究 山口和男 ミネルヴァ
マルクスの生涯と思想 ルイス 法政大出版
初期のマルクス研究 マルクーゼ 未来社
若きマルクス ルカーチ 法政大出版

<演習 I>

現代の社会保障 荒木誠之 同文館
社会保障 平田富太郎 日本労働協会
社会保障への途 ILO 東大出版
社会保障論 庭田範秋 有斐閣

<演習 II>

ビスマルク後の国家と社会政策 ボルン 法政大出版
ドイツ経済政策史序説 肥前栄一 未来社
女子労働力 手塚 浩 日経
労働の歴史 クチンスキー 法政大出版

時政 昴 <国民所得論>

現代の経済学1-5 建元・渡部 日経
近代経済学 新開・新飯田・根岸 有斐閣

鳥居 健男 <日本経済論>

現代の物価 塩野谷祐一 日経
現代の日本企業を考える 宮崎義一 岩波
国家独占資本主義 大内 力 東大出版
日本人の経済行動 上・下 隅谷三喜男 東洋経済
日本経済論 江見・塩野谷 有斐閣

法 学 部

伊藤不二男 <国際法 I>

国際法 田岡良一 勁草書房
ビトリアの国際法理論 伊藤不二男 有斐閣

- 川上宏二郎 <法学>
 演習法律学概論 井上・矢崎 青林書院
 外国法の常識 早川武夫(他) 日本評論社
 法学入門 米倉明 東大出版
 法学を学ぶ 芦部信喜(他) 有斐閣
 実定法学入門 田中英夫 東大出版
- <行政法Ⅰ>
 行政法(上) 金子・広岡・山本 法学書院
 行政法(上) 田中二郎 弘文堂
 行政法講義(下) 成田頼明(他) 青林書院
 行政法総論 広岡隆 ミネルヴァ
 行政法総論Ⅰ・Ⅱ 佐藤立夫 前野書店
- <行政法Ⅱ>
 行政手続・行政争訟法 杉村・兼子 筑摩
 住民自治の権利 沼田・星野 法律文化社
 各国の地方自治制度 後藤一郎(他) 敬文堂
 公害と行政法 原田尚彦 弘文堂
 国家補償法 下山瑛二 筑摩書房
- <憲法・行政法演習>
 現代行政法の原理 室井力 勁草書房
 現代国家と行政権 渡辺洋三 東大出版
 憲法と行政法 杉村敏正 勁草書房
 訴えの利益 原田尚彦 弘文堂
- 川上太郎 <国際私法>
 法律学全集 59 池原・江川 有斐閣
- 河村博文 <商法A>
 会社法 本間・山口(他) 法律文化社
- 河島幸夫 <政治学原論>
 現代の政治 中村義知 法律文化社
 現代政治と人間 岡本(他) ミネルヴァ
 政治学一岩波小辞典一 岩波
 政治学事典 平凡社
 ウェーバー政治社会論集 河出書房
- <外書講読>
 ヒトラー後のドイツ 到津十三男 紀伊国屋
 西ドイツ 井手重昭 NHK
 西ドイツ 永井清彦 三一書房
- <基礎演習>
 ドイツ革命史序説 篠原一 岩波
 近代ドイツの政治構造 望田幸男 ミネルヴァ
 近代ドイツ史Ⅰ・Ⅱ マン みすず
 ヴァイマル共和国成立史 ローゼンベルク みすず
 ヴァイマル共和国史 ローゼンベルク 東邦出版
- <演習>
 アドルフ・ヒトラーⅠ・Ⅱ バロック みすず
 ビヒモス ノイマン みすず
 ドイツ近代憲法史 山田晟 東大出版
 ヒトラー マーザー 紀伊国屋
 ナチス・ドキュメント ホーファー ベリかん
- 西山雅明 <刑法Ⅰ>
 犯罪各論 西原春夫 筑摩書房
 刑法綱要各論 団藤重光 創文社
- 篠原 満 <刑事訴訟法>
 弁護士ベイリー ベイリー 平凡社
 演習刑事訴訟法 高田・田宮 青林
 刑事訴訟法一セミナー法学全集3一 日本評論社
 日本の裁判 朝日新聞社 日本評論社
 市民のための刑事訴訟法 青木英五郎 合同出版
- 田辺康平 <商法Ⅲ>
 基本法コンメンタール一商法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ一
 星川・服部 日本評論社
 商法総則講義 服部栄三 文真堂
 手形小切手法講義 田辺康平 文真堂
 手形・小切手事故百科 星川長七(他)
 商事法務研究会
- ワーク・ブック商法 服部栄三(他) 有斐閣
- <商法Ⅳ>
 現代損害賠償法講座6 石田満(他) 日本評論社
 保険法 田辺康平 ミネルヴァ
 保険契約法の諸問題 石田満 一粒社
 交通事故と責任保険 金沢理 成文堂
 商法を学ぶ 谷川久(他) 有斐閣
- 高橋貞夫 <社会法Ⅰ>
 団体交渉と労使協議制 石井照久 総合労働研究所
 経営秩序と団結活動 峯村光郎 総合労働研究所
 公務員の労働基本権 中山和久 労働旬報社
 公務員労使関係法の展開 園部逸夫(他) 有信堂
 日本労働争議法論 藤田若雄 東大出版
- <社会法Ⅱ>
 婦人・年少労働者 松岡三郎 総合労働研究所
 休憩・休日・休暇 秋田成就 同上
 採用・配転・出向・解雇 外尾健一 同上
 社会保障法 叔井常喜 同上
 職場規律と懲戒 窪田隼人 同上
- <労働法>
 労働法大意 菊池勇夫(他) 有斐閣
 労働協約の締結と運用 沼田稻次郎 総合労働研究所
 労使関係における変化と対応 三藤正 千倉書房
 使用者の争議対抗行為 片岡昇 総合労働研究所
 就業規則の作成と運用 中山和久 同上
- <基礎演習>
 現代における権利とは何か 伊藤正己(他) 有斐閣
 現代の社会保障 荒木誠之 同文館
 判例による法学入門 中川善之助 青林書院
 法秩序の構造 井上茂 岩波
 法と世論 ギンズバーク 勁草書房
- <演習>
 安全・衛生・災害補償 佐藤進 総合労働研究所
 賃金・退職金・年金 本多淳亮 同上
 不当労働行為の認定基準 塚本重頼 同上
 労働時間・残業・交替制 蓼沼謙一 同上
 労使の言論・政治・文化活動 青木宗也 同上
- 田村茂夫 <商法Ⅱ>
 会社法 上・下 竹内・龍田 東大出版